

宇美町立図書館開館10周年記念誌



平成30年3月
宇美町立図書館

目 次

ご あ い さ つ

開館10周年の節目を迎えて～宇美町長 木原 忠～……………	1
子ども読書活動の推進拠点として～宇美町教育委員会教育長 山本 浩～……	2

図書館のあゆみ

～ 建築に至るまで～……………	3
～ 開館後のあゆみ～……………	4

データに見る図書館のすがた

○ 施設概要……………	7
○ 蔵書数と貸出冊数の推移	
○ 図書館利用者の推移	
○ 利用者アンケートの結果……………	8

これからの10年に向けて

～宇美町立図書館協議会委員の「私のひとこと」～……………	9
～大切なバトンをつなぐために～宇美町立図書館長 黒田修三……………	12

ごあいさつ

開館10周年の節目を迎えて

宇美町長 木 原 忠



宇美町立図書館が、平成19年9月に地域交流センター「うみ・みらい館」内にオープンし、今年で10年という節目を迎えました。

この間、町民の皆様方をはじめ、読書ボランティアの方々や地域有志の方々の力強い御支援により、大変活気ある図書館活動が展開されてきたことに、深い感銘を受けております。こうした10年間の継続した取組を通して、平成27年度には日本図書館協会建築賞を受賞し、また子ども読書活動の推進では、文部科学省をはじめ県内外から高い評価を受ける図書館にまで育てていただきました。改めまして皆様方に心よりお礼を申し上げます。

建設当時を振り返りますと、福岡都市圏の全ての市町に図書館が整備されていく状況の中で、当町では「しーず・うみ」図書室が唯一町立図書館の役割を担っておりました。その後、町民の皆様の図書館建設に対する待望気運の高まりを受け、安川前町長が御英断をされ宇美町立図書館建設に至った次第です。私も設計段階までは所管の社会教育課長として在職し、建設に関わらせていただきましたが、財源の確保をはじめ多くの困難な課題に直面したことを記憶いたしております。

しかし、町当局と町議会、図書館建設準備委員会、住民参画のワークショップ等で度重なる協議を積み重ね、一つ一つの課題を丁寧に解消することにより、ようやく図書館の完成に至りました。その館が10年目を迎え、また前述いたしましたように内外から高い評価を受けておりますことは、安川前町長をはじめ様々な形で建設や運営に関わってこられた多くの方々は勿論だと存じますが、私自身も非常に感慨深いものを感じているところです。

いま読書をめぐる環境は大変厳しく、全国的にもものすごい勢いで本離れ、活字離れが進んでいます。したがって、私たちはこの10年、皆様方から頂戴したエネルギーを糧に、さらにこれから先の10年を見据えて、当町の知の拠点である町立図書館の充実に努めてまいり所存でございます。平成32年度には、宇美町も町制施行100周年を迎えます。町と図書館共々が持続的な成長を続けることができますよう、引き続き皆様の御指導と御鞭撻を衷心よりお願い申し上げあいさつといたします。

平成30年3月

ごあいさつ

子ども読書活動の推進拠点として

宇美町教育委員会教育長 山 本 浩



平成19年9月29日に念願の宇美町立図書館が開館いたしました。機を同じくして、本町は平成19年度、20年度に文部科学省が全国10地域を指定した「子ども読書の街」づくり推進事業の委嘱を受けました。そして、「家庭・地域」と「保育園・幼稚園」、「学校」、「町立図書館」の4つの活動の場を柱に据え、子どもの読書活動の推進に取り組みました。

無論、全ての活動の場における子ども読書活動の推進に、町立図書館が深く関わってきたことは申すまでもありません。そのことは、町立図書館が事務局として平成22年2月に策定した「宇美町子ども読書活動推進計画」に結実します。そこでは、家庭や地域、保育園・幼稚園、学校、町立図書館、そして行政が連携して取り組む52項目に及ぶ具体的な目標を掲げました。平成27年2月には「第2次宇美町子ども読書活動推進計画」を策定し、項目ごとに取り組んだ結果を町立図書館の図書館協議会で評価を受けるなど、さらにきめ細かな推進体制を整えました。

このような中から、平成21年度に「宇美町図書館を使った調べる学習コンクール」が始まり、平成23年度からは7か月健診時に絵本を手渡す「ブックスタート事業」が町立図書館所管となり、平成25年度には町立図書館で小学生を対象に「子ども読書リーダー養成講座」が、平成27年度からは中学生も交える形で開催されるなど、子ども読書推進の取組が次々に産み出されました。まさに町立図書館の10年の歩みは、本町の子ども読書活動の振興と軌を一にした感があります。

平成27年度の日本図書館協会建築賞受賞の際には、建物の素晴らしさと同時に、子ども読書活動推進の取組が高く評価されたと伺っております。さらに特筆すべきは、全小中学校配置の学校司書を教育委員会社会教育課所属にしたことで、日常的に町立図書館職員との連携が進み、学校での子ども読書の質量ともに豊富になったということです。

町立図書館は、この10年間、子ども読書活動の推進拠点としての役割を着実に果たしてまいりました。そしてこれから先も、宇美町の未来を創る子どもたちの頭と心の成長のために、たゆまず取組を進めていく所存でございます。皆様方の一層の御指導と御支援をお願い申し上げます。

平成30年3月

図書館のあゆみ

～ 建築に至るまで～

図書館の時代

- 昭和26年 宇美町公民館の1室に図書館開設、蔵書数500冊で館内での閲覧
- 昭和54年 宇美町立中央公民館が完成し、図書室を付設。蔵書数2,260冊で平日に閲覧
- 昭和57年 同図書室で水・土・日曜・祝日に1人2冊まで貸出を可能にする
- 平成元年 働く婦人の家「しーず・うみ」が完成し、図書室を移転。1人2冊で1週間貸出可能にする
- 平成6年 「しーず・うみ」図書室で、幼児向けおはなし会を第2水曜日10時30分～11時に開始
- 平成9年 開室時間を午前9時30分～午後5時に、貸出冊数を1人5冊までに、貸出期間を2週間までに変更、図書室蔵書数が20,000冊を突破
- 平成10年 開室時間を午前10時～午後6時までに変更、図書電算システムを導入(富士通)、7月に福岡県立図書館情報ネットワークFLネットに加入、手づくり布の絵本ボランティア・サークル「ポエム」が活動開始
- 平成12年 幼児向けおはなし会を第2・第4水曜日に拡大、園児・小学校低学年向けおはなし会を第1土曜日10時30分～11時で開始
- 平成13年 貸出冊数を1人10冊までに拡大、図書室蔵書数が30,000冊を突破。福岡都市圏22市町での広域利用開始、園児・小学校低学年向けおはなし会を第1・第3土曜日14時からに変更

図書館建設の躍動

- 平成14年12月 宇美町第4次総合計画の主要プロジェクトの中に、「町立図書館の建築」、「生涯学習の推進」を掲載
- 平成15年10月 宇美町立図書館建設・運営準備委員会が発足
- 平成16年4月 図書館建築設計候補者審査(QBS方式)委員会発足
- 平成16年6月 図書館建築設計最上位候補者を株式会社日本設計に決定
- 平成16年6月 図書館建設地の決定
- 平成16年9月 「宇美町立図書館を考える町民のつどい」、「みんなでワイワイ図書館ワークショップ」(住民向け・子ども向け)開催
- 平成16年11月 宇美町立図書館基本構想の承認
- 平成17年4月 図書館開設準備室の開設
- 平成18年9月 公募により宇美町地域交流センターの愛称を「うみ・みらい館」に決定
(当選者:宇美町在住 大久保律子氏)
- 平成19年7月 宇美町地域交流センター「うみ・みらい館」完成
- 平成19年9月 宇美町地域交流センター条例の施行

QBS方式(資質評価)とは
建築設計を委託する上で、設計者の資質、実績(建築家の代表作)、人柄、熱意等を評価して最適な設計者を選ぶ方式



子どもワークショップの様子



住民ワークショップの様子

～ 開館後のあゆみ ～

～宇美町立図書館開館の思い出～

宇美町前町長 安川 博



開館10周年を心からお慶び申し上げます。

振り返りますと、選挙公約であった図書館建設を第4次総合計画の主要プロジェクトに掲げましたが、議会や町民の方の一部から「財政難の折なげなのか」や「図書室を改修したらよい」などの懸念の声が出されました。

一方で、「生涯学習社会の今、町の知の拠点としての図書館は必要」という肯定的な意見が大勢を占めるようになり、議会の一般質問を契機に、図書館建設の機運が一気に高まりました。

建設にあたっては、町民の声が最大限に生かされるよう、QBS方式（資質評価）により設計者を決定し、学識経験者や町民代表による建設・準備委員会、町民ワークショップ、シンポジウム、アンケート箱の設置などを行い、民意を最大限に取り入れました。また業者の選定については、今では主流となった一般競争入札を先駆けて採用しました。

思い出が建設中心の話になりましたが、多くの町民の皆さんに図書館を利用していただきたいと願うと同時に、子どもたちには、読書によって慰められたり、自信を取り戻したり、本を良き友にして、将来、困った時や人生につまずいた時に、愛読書を手に取るような人になって欲しいと心より願っております。

平成19年9月29日 宇美町地域交流センター「うみ・みらい館」とともに、町立図書館が開館、初代館長に杉村隆毅氏が就任、開館記念式典が開催される



開館準備の様子



記念式典と前文部科学審議官田中壮一郎氏記念講演の様子



開館当時の様子

平成19年度～20年度 文部科学省委嘱「子ども読書の街」づくり推進事業を受託

「子ども読書の街」とは

文部科学省は、学校が地域や家庭と連携して、子どもの「読む・調べる」習慣の確立に向けた取組を街全体でモデル的に進める「子ども読書の街」に全国10の市町村を指定し、研究成果等を全国に普及していく事業を展開しました。宇美町は2年間指定を受け取組を進めました。

平成19年10月 おはなし会ととんの「おはなし会」を毎月第2・4水曜日に開催、
布の絵本製作ボランティア「ポエム」が活動開始



おはなし会の様子

平成19年12月 絵本の読み聞かせ講座(全3回)を開催

平成20年2月9日 福岡県読書推進大会「宇美町大会」開催、記念講演に作家佐木隆三氏を招聘

平成20年 3月 宇美町立図書館協議会が発足

平成20年 4月 第2代館長に稲光勇雄氏が就任

平成20年4月23日 子ども読書の日「屋外テラスでおはなし会」を開催

平成20年9月27日～11月19日 開館1周年記念事業を開催

- 絵本作家かさいまり講演会と原画展を開催(9月27日～10月13日)
- 雑誌のリサイクルフェア開催、布の絵本製作ボランティア「ポエム」作品展示
- とんとんのおはなし会(10月5日)、スペシャルおはなし会(10月22日)を開催



平成20年11月8日～平成21年3月8日 「読み聞かせのうみ」朗読ワークショップを開催(全7回)

平成21年 4月 第3代館長に八谷俊一郎氏が就任



宇美町図書館を使った調べる学習コンクール」開始

開館1周年記念事業ポスター

「宇美町図書館を使った調べる学習コンクール」とは

児童・生徒が興味を持ったテーマを図書館を使って調べ、レポート作品にまとめるもの。各学校と町立図書館が連携して取組を進め、10月の宇美町コンクールでは、町長賞や教育長賞など様々な賞が決定し、全国大会に出品される。地域コンクールの応募率は全国トップレベルに達する。

平成21年10月7日～12日 「図書館読書まつり」という名称で様々な行事を実施する

平成22年 2月 宇美町子ども読書活動推進計画～ふみの里 うみっ子読書プラン～を策定

宇美町子ども読書活動推進計画の概要

平成19～20年度の「宇美町子ども読書の街」推進事業を基に、3つの目標と4つの基本方針を設定。「家庭・地域」、「保育園・幼稚園」、「学校」、「町立図書館」、「行政各課」が取り組む52項目を決定し、5年間の整備目標を示す。

平成22年 4月 5小学校3中学校全ての学校司書を教育委員会社会教育課(図書館係)所属にする

宇美町の特長としての町立図書館と学校との連携

学校司書と町立図書館職員が同じ所属であるため、日常的に連携が図られ、学校図書館の活性化や高度化、「子ども読書リーダー養成講座」や「図書館を使った調べる学習コンクール」など連携事業が大幅に推進し、町全体の子どもの読書活動の向上に大きく貢献している。

平成22年 9月 読書ボランティア養成講座「図書資料の修復講座」(全2回)を開催

平成22年11月21日 ふみの里まなびの森フェスタに参加、ブック・リサイクル、布の絵本展示を実施

平成22年11月～12月 読書ボランティア養成講座中級編(全3回)を開催

平成23年 4月 第4代館長に廣修治氏が就任

ブックスタート事業を開始(健康づくり推進室から事業移管)

平成25年 4月 図書館雑誌スポンサー制度を開始(11者14タイトル)

- ・ 子ども読書リーダー養成講座を開始(後に小学生読書リーダーに改称)



ブックスタート事業の様子

「小学生読書リーダー養成講座」とは

町内全小学校から募集した児童に、町立図書館で5回程度の講座を実施し、その成果を学校での読書普及の実践に生かす取組。図書委員会と連携し大きな成果を上げている。



小学生読書リーダー、中学生読書サポーター合同閉講式の様子

平成26年 4月 第5代館長に安河内文彦氏が就任

平成26年 8月 第6代館長に黒田修三氏が就任

平成27年 3月 第2次宇美町子ども読書活動推進計画を策定

平成27年 4月 中学生読書リーダー養成講座を開始(後に読書サポーターに改称)

平成27年10月 公益財団法人日本図書館協会第31回建築賞を受賞

平成28年 1月 第1・3土曜日に司書によるおはなし会を開始

平成28年 7月 保育園貸出図書セット(100冊)を作成し、4町立保育園に毎月配本開始

原田小学校区コミュニティ運営協議会「移動図書館」を支援(選書・団体貸出、運営支援)

平成28年11月 図書の貸出冊数の上限を10冊から15冊に、視聴覚資料の貸出期間を4日間から7日間に延長、あわせてWeb予約を在架の図書資料全てに拡大

平成29年 7月 保育園貸出図書セットの配本を4町立保育園に加え2認可保育園に拡大、2か月1回に変更

平成29年10月28日・29日 図書館開館10周年記念事業「図書館読書まつり」を開催。10月28日14時から開館10周年記念式典を開催し、読書推進に貢献のあった団体(宇美町商工会青年部、おはなし会とんとん、布の絵本製作ボランティア「ポエム」、読み聞かせの会「うみほうずき」)への感謝状の贈呈や宇美町出身の作家山口幸三郎氏の講演会を実施



建築賞受賞の様子



記念式典の様子



山口氏と中学生との対談の様子



YAコーナーの山口幸三郎文庫

平成30年 2月24日 上記山口幸三郎氏から寄贈された68冊の青少年向け新刊書と同氏の作家活動を紹介する「山口幸三郎文庫」を開設

データに見る図書館のすがた

○ 施設概要(宇美町地域交流センター「うみ・みらい館」)

所在地:福岡県粕屋郡宇美町平和1丁目1番2号

施工期間:平成17年11月～平成19年7月

敷地面積:13,093.32㎡

建築面積:4,065.93㎡

延べ面積:5,381.19㎡(内図書館専用部分:1,983.67㎡)

構造:鉄骨造 一部鉄筋コンクリート造2階建て

立体駐車場

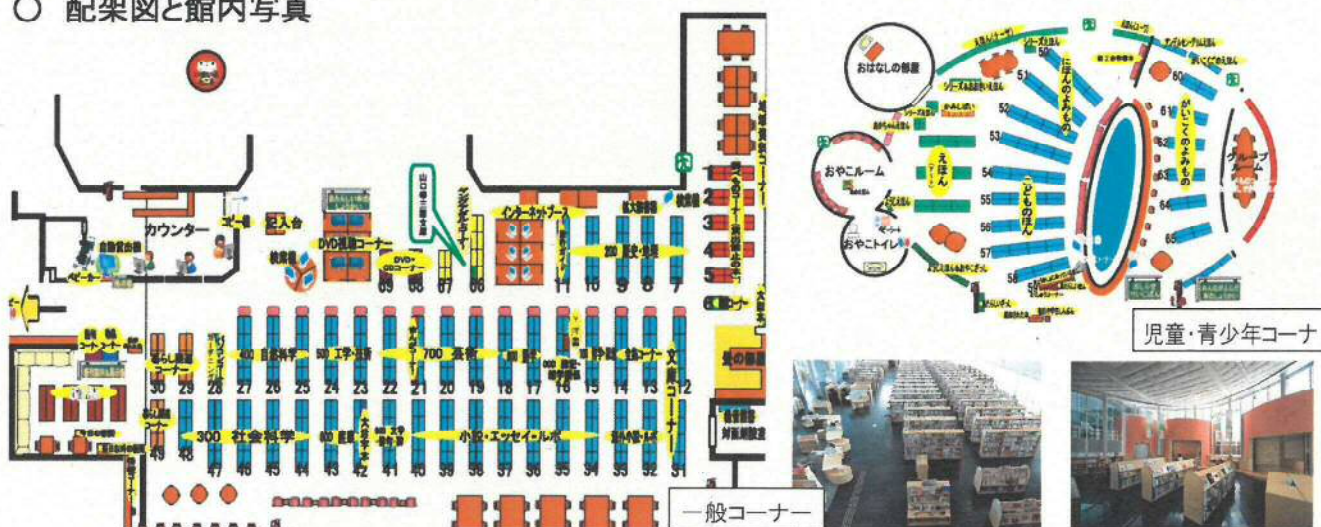
延べ面積:1,936.86㎡

駐車台数:86台

構造:鉄骨造地上2層3階建て

建築費:1,632,750(千円)	財源内訳	国費(まちづくり交付金)	376,025(千円)
		地方債(一般補助施設整備等事業)	918,700(千円)
		一般財源	338,025(千円)

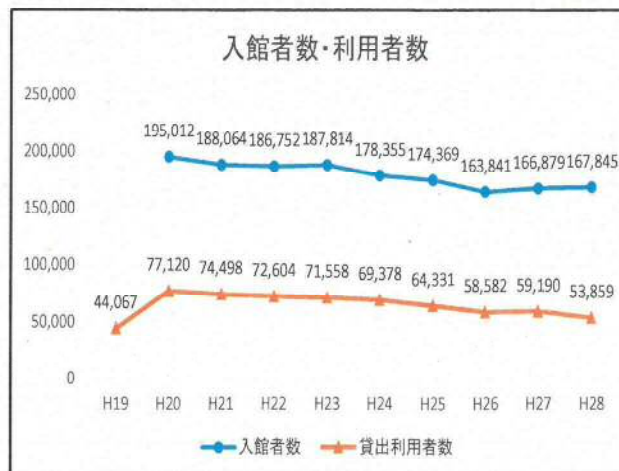
○ 配架図と館内写真



○ 蔵書数と貸出冊数の推移



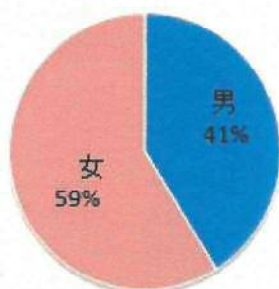
○ 図書館利用者の推移



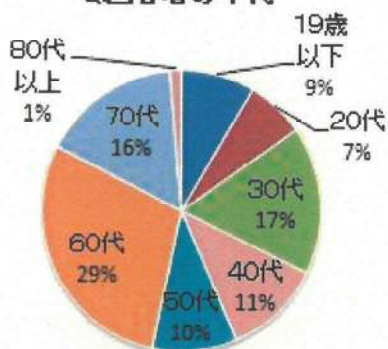
○ 利用者アンケートの結果

- 1 調査期間 平成27年6月10日～7月4日
- 2 調査方法 町立図書館窓口カウンターを中心にして手交し、記入依頼
- 3 回収枚数 228枚
- 4 調査結果(質問全15項目中8項目の回答を抜粋して掲載)

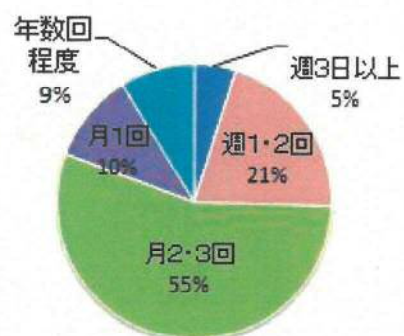
q回答者の性別



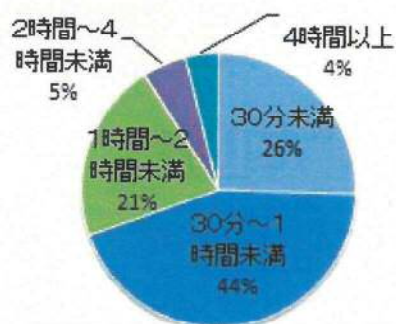
q回答者の年代



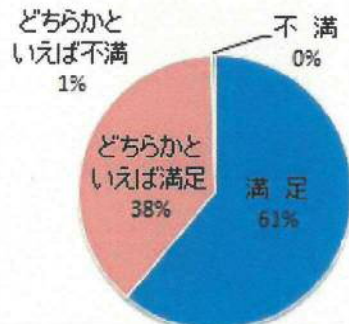
qどのくらいの頻度で図書館を利用されますか



q.1回に、およそどのくらいの時間滞在されますか



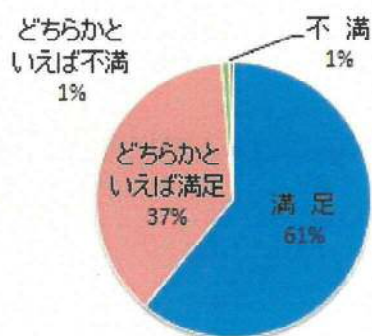
q職員の対応について、どのように感じられましたか



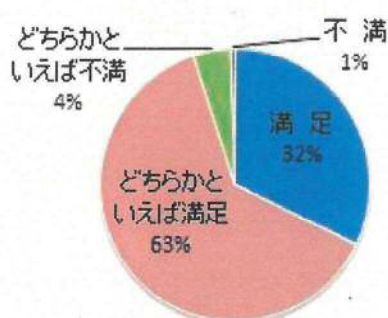
q.図書館資料についてお尋ねします



q.施設や設備について、お尋ねします



q.図書館の行事やイベントについて、お尋ねします



U M I M A C H I

イラスト:みぞべあやこ

これからの10年に向けて

～宇美町立図書館協議会委員の「私のひとこと」～

図書館協議会会長 河井律子（元福岡県立図書館副館長）

待ちに待った宇美町立図書館の開館に、胸躍らせてからもう10年も経ったことに、驚きと感動を禁じえません。図書館建設準備委員会での産みの苦しみを経て、図書館が誕生し、今や図書館業務に加え、全国的に注目されている図書館を使った調べる学習コンクール事業、公共図書館司書と学校・学校司書との連携など様々な取組で成果を上げるなど、活発な図書館活動が展開されています。それもひとえに図書館長を始めとする図書館職員、ボランティアの皆さん、関係各位のご努力のたまものと深く感謝いたします。

これからの10年は、図書館の大変革の時期になると思います。図書館の基本であるランガナタンの五法則——①図書は利用するためのものである、②いずれの人にもすべて、その人の本を、③いずれの本にもすべて、その読者を、④読者の時間を節約せよ、⑤図書館は成長する有機体である——の精神を見失うことなく、柔軟に時の流れを受け入れつつ、町民のための図書館を実現させていって欲しいと願っています。



図書館協議会の様子：左から猪瀬委員、松井委員、川上委員、安川委員、河井会長、阿部副会長、矢野委員

図書館協議会副会長 阿部美樹（宇美東小学校長）

開館10周年、誠におめでとうございます。

宇美町の文化創造の中核となる施設として、着実な発展を遂げられてきたことに敬意を表したいと思います。そして今や、学習情報センターとしての役割だけではなく、学校や地域をつなぐイベントなど、コミュニティの核となる人と情報が集散する基地として、一翼を担っていることは間違いありません。

これからも地域に愛され、地域とともに成長する図書館として、さらなる飛躍をご祈念いたします。

図書館協議会委員 安川一馬（宇美町教育委員会教育長職務代理）

現代社会では読書や活字離れが深刻化していますし、社会の情報化・デジタル化が急速に進み、その波は本町図書館にも押し寄せております。町立図書館は平成19年9月に開館され、現在は「図書館よ、町民の宝箱となれ」をスローガンに各事業を展開されています。そしてそのために、次のことに全て取り組まれています。

地域社会での図書館の役割、町民の読書施設としての役割、地域の知的遺産の保存の役割、学校(小・中・高等学校と幼稚園・保育園)への支援体制の整備、生涯学習の支援、日常的な図書館サービスの充実、他団体との連携・協力体制の整備、活発な図書館協議会の開催など。

昨今、日本の世の中がお粗末でおかしくなっています。政治家や日本を代表する大企業のモラルの低下、国民までも利己主義が蔓延しています。もう一度人間の心を見直す必要があり、読書に勤しんで欲しいと考えます。

宇美町立図書館は、年間を通じて毎月素晴らしい事業を展開されています。子どもや高齢者の利便性を考えた交通手段を再考され、各事業のレベルアップや職員のスキルアップがさらに継続されていけば将来に繋がり、町の図書館としての役割は果たせると考えております。

図書館協議会委員 川上利香（特定非営利活動法人宇美子ども子育てネット・う～みん代表）

「宇美町には素敵な図書館がありますね」と他市町の方より何度かお声をかけて頂いたことがあります。図書館は、私自身も町内の好きな場所の一つです。

「うみ・みらい館」という名称のように、これからも沢山の人の希望が生まれる場所であり、心が癒される場であることを心より願っています。そして、利用する人ひとり一人が図書館で共に過ごす時間を大切に思い、より豊かになるためにできることを考え工夫していけたら素晴らしいのではないかと思います。

図書館協議会委員 猪瀬正典（宇美町社会教育委員会議会議長）

宇美町に図書館が設立され、早10年が経過しました。この間、児童・生徒を対照に「図書館を使った調べる学習」が展開され、子どもたちの読書の推進、図書館の利用促進が図られ、大いに成果が発揮された事だと思います。

また、小・中学校で実施されている朝読書等の時間で、ボランティアの方々が図書館の本を活用して、読み聞かせなどのおはなし会をされ、本の紹介が推進されている事と思います。

これからの10年に向けて、町民の方々にますます利用される図書館になってほしいと願っています。

図書館協議会委員 矢野若恵（宇美町立貴船保育園長）

宇美町立図書館開館10周年おめでとうございます。

現在、町内の6つの保育園は、図書館職員の方に100冊選書をしていただき、2か月に1回配本してもらい大変感謝しております。子どもたちは、毎回楽しみにして目を輝かせ本に触れ合っています。図書館の本を手にとった子どもたちが、これから10年、20年と成長するに伴い、積極的に宇美町立図書館を利用してくれると思います。

今後とも図書館のさらなる発展を心より願っております。

図書館協議会委員 松井通代（元志免町立町民図書館長）

近年の10年の社会情勢の変遷は、そのスピードと多様化においてあまりにも早く、理解の域を超えて深い。図書館の持つ意義も役割も併せて変化せざるを得ないことになると思うが、人間の人生の根幹に関わる「心を育てる」機関ということには、変わりはない。

「IT革命」といわれる現代に融合していきながら、新たな図書館の在り方を模索して、文字・活字の文化を保存し、資料を収集し、人間の歴史をつなぐ部分を担う図書館の重要性はますます求められていくものと思われる。これからの宇美町立図書館の10年はどんなに社会状況が変化しようとも、人の心に寄り添い、人を育て、人を繋いでいく図書館であってほしいと願う。

◆ 歴代の図書館協議会委員

*平成20・21年度は、平成20年3月18日から平成22年3月17日まで

	20・21年度	22・23年度	24・25年度	26・27年度	28・29年度
会長	富原 智一 (学識経験者)	河井 律子 (学識経験者)	河井 律子 (学識経験者)	河井 律子 (学識経験者)	河井 律子 (学識経験者)
副会長	河井 律子 (学識経験者)	城戸 俊也 (学校教育関係者)	安河内 文彦 (学校教育関係者)	水上 栄一 (学校教育関係者)	28年度 寺本 正治 29年度 阿部 美樹 (学校教育関係者)
委員	小林 智恵子 (学識経験者)	小林 智恵子 (学識経験者)	小林 智恵子 (学識経験者)	安川 一馬 (学識経験者)	安川 一馬 (学識経験者)
委員	山野 芳郎 (学校教育関係者)	川上 利香 (家庭教育関係者)	川上 利香 (家庭教育関係者)	川上 利香 (家庭教育関係者)	川上 利香 (家庭教育関係者)
委員	井上 真弓 (学校教育関係者)	一瀬 トシ子 (社会教育関係者)	一瀬 トシ子 (社会教育関係者)	一瀬 トシ子 (社会教育関係者)	猪瀬 正典 (社会教育関係者)
委員	中嶋 紋子 (教育関係者)	石田 美枝子 (教育関係者)	中村 紀子 (教育関係者)	有田 桂子 (教育関係者)	矢野 若江 (教育関係者)
委員	世利 順二 (社会教育関係者)	松井 通代 (学識経験者)	松井 通代 (学識経験者)	松井 通代 (学識経験者)	松井 通代 (学識経験者)
委員	一瀬 トシ子 (社会教育関係者)				

～ 大切なバトンをつなぐために

宇美町立図書館長 黒田修三

私は平成26年8月1日、当図書館に館長として赴任いたしました。

その時の第一印象は、何よりも施設の立派さと開放感です。福岡都市圏16市町中6番目の広さや吹き抜け構造、大きな窓から見える中庭の木々、コリドールと呼ばれる回廊を行き来する人たち。本に囲まれ閉ざされた空間で静かに読書をする、という図書館のイメージは見事に覆されました。さらに驚いたのは、町内8校に勤務する学校司書が社会教育課の町立図書館所属だったことです。



何故このような素晴らしい図書館ができたのか、その理由を昨年10月に開催した「開館10周年記念事業」に取り組む中で、垣間見ることができました。図書館建設の発案から完成に至るまでの関係者の御労苦、QBS方式や町民参加などの様々な工夫、現在の活発な子ども読書活動や学校連携の取組を支える仕組みづくり、その一つ一つに先達の想いと汗が滲んでいました。

平成27年10月15日には、日本図書館協会から建築賞を頂戴いたしました。それは施設の素晴らしさだけではなく、図書館の運営についても評価を受けてのことでした。爾来、他自治体の公共図書館を始め、文部科学省、遠くは韓国釜山大学教員などの視察が相次ぎましたが、視察者の多くが発する第一声は、冒頭私が受けた感銘と同様の内容でした。

ところが残念なことに、図書館開館の5年程度を経過した時期から、新鮮さが失われたのか、現在に至るまで利用者が漸減傾向にあります。利用者の減少は、他の多くの公共図書館も同様な状況にあるのですが、要因としては各種調査からも明らかなように、人々の読書離れが最も大きいと考えられます。超高齢化、少子化、人口減少、ICTの普及など社会のドラスティックな変化も影響していると思量されます。

こうした中、新規利用登録者の開拓やリピーター増、一人当りの利用率の向上などに努めてまいりましたが、なかなか成果が上がっていません。しかし近年、利用者が増え話題となっている図書館の中には、読書に興味がない人をもひきつける独自の取組が功を奏しているところも見受けられます。いわゆる館内での飲食や多機能複合型など、従来の図書館の概念を飛び越え付加価値を持った取組です。これらの長短をしっかりと見極め、一方で公共図書館本来の使命を追及していく必要があります。

はたして、先達から引き継がれた本施設の特長を生かしていけるのか、子どもの読書を始めた読書推進の取組を発展させていけるのか、託された宿題は大変大きいと感じています。今一度、図書館建設当時の人々の情熱に立ち返り、本町の知の拠点としての使命を果たすとともに、誰でもが気軽に立ち寄れる文化の香り高いアメニティ空間づくりをめざしたいと考えています。



見つめようこの百年、
うみ出そう次の百年。

宇美町立図書館開館10周年記念誌

発行日 平成30年3月

発行 福岡県宇美町教育委員会

連絡先 福岡県宇美町教育委員会社会教育課図書館係

福岡県糟屋郡宇美町平和1丁目1番2号

TEL 092-932-0600 FAX 092-932-0631